大和歌抄

1利4
1·765
29

146

門へ割4
1765
27

文木和訓抄 雜十一 第十九 二十

改頁

木 松 樺 柄 桂

楸 枝保持 椙保持 槙 杉 檜

梨 李 杏 柏 梢

榧 栗 櫃 槻 柳 合法

檜 櫻 妻摩 歡合木 胡桃

櫻 漆 楽 櫟 猪滑 櫨 櫟

そくの木 ゑとぢの木 ふしの木 ふしの木

ゆすら 逸師 逸師 櫃 柿 茱

ゆすら 樟 茱

344

木

文集百首 三行倚首

林柳作る林檎桃櫻花樹

為法和尚

ひさうなる（宿）木この梢よりなてやまとあるとも玉ひるる（けるかな）

拾遺正月

白雪ふる

ことのはしつ

ひとりぬるとて木をいひ出るれいはつ（深）さみのりをきく（聞）

ひとは

要集四大長命仏ゆさされるとあるなの事

（特ける）

よ作るる

能宣朝臣

なるなへ（うるる）木の陰（暗）とかくれる（夏）の秋ふるさのりの（ひかりに）

七夕

七夕貴樹風（に）ゆハて（ゆ）ゆ入おの妻（ゆ）川へ

伊豆國 韮山藏書 坂村

ツ

ヅ

ク

345

陸奥守藤原朝臣[夫]

久安百首

いつとなく春のうつりの花の枝[千枝]に

西治二年百首　　前大納言隆季卿

わかの浦さくらの木の枝にたつ[光]

詩　　権中納言経房

なへて[て]のうらのはるのみ[迎]ぬ[ぬ]

文永五年毎日一首中　　民部卿藤原為家

まつ[ま]ぬ[ぬ]のうら[浦]の木のもとゆき[こそそ]の花[ゆき]こそ[する]

新古二　昨日　　同

すぎ[て]ぬ[ぬ]まの[の]ぬ[ぬ]ま[ま]の[の]ぬ[ぬ]ま[ま]の[の]ぬ[ぬ]ま[ま]の

546

海流

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺 負外

源門義の風をしたふとて分いりつとめのもとにたちの

雲居法師

歌集 えとうさ

おとりなの世をうぬ人のふ

月 まとり木

重

新千 物名

恵慶集

放

曲

つとらつ

二字下

5

りあ

おとこ

百首哥たてまつる初夏

寂蓮法師

文意元年毎日一首中 國々四季

歌集

思

月 ちくさ

続千 雜躰

おかてい

月 あやれ木

思

後拾遺

近

七イ

月 ふる山の雪のしたにふるあやれ木のうへにふるとてあやれつ

似 ふる里あやれ木になりにけるとしのうちにさくらあり

寛治二年百首哥の内 わさきのこやさ

佐宗卿

節

たちかへるあさのこやさゝ分けさきはつるこの春かな

松

三行ヘカトル

[illegible]

万十二

ひとしほの松のすゑまであれぬとはいとのこゝろのたゆたはぬかな

妹

人丸

伊勢集

三

円

秋古歌五

まつ

ときこゆるみのゝ松山のひとよねをまちとれぬと

人丸

万二

のちこんと君をこゝろにとゞめてもこゝろのゆくらまぬ人のこゝろを

有間皇子

[illegible]

万十一

いとしのこゝろの松ゝ枝をゆひ結ぶ人のこゝろ

意吉丸

[illegible]

万二

[illegible]代の野市にたてる山すゝき松にとゝまれ人を

中納言行家卿

[illegible]

万九

やちくさの花はいろゝあれど松のさゝ枝をわがまいむかん

よろこ人丸

円

万十

[illegible]

円

[illegible]

万四

[illegible]

円

[illegible]

万十二

[illegible]

円

[illegible]

春のくれ

かすみのうちの松の木にうぐひすのなくこゑ

元服ののちまもりて　能宣朝臣

春日野にたちのぼりゆくかすみの松のこずえをなびかすらん

園韓院の御時はるの日よ松のもとにて

法性寺入道関白

続千賀

ひさしかるべきたちとなるべきこの松の陰をたのまん

藤原為忠朝臣

ときわなるこの家の松のひけとれば松の末すえにうぐひすぞなく

三百六十首中

為忠

ちりぬるかのこの松の花はくもいかとみるまで

建保二年百首　法之住僧正

ちりかかるかの松のこのもとにたちよりてこそ春はくれぬる

洞院摂政家百首

ちりのこる山松の末のまばらにて月にはあかぬ風ぞすさまじ

文永五年毎月一首中　藤原為氏朝臣

ちりのこる山松のこずえにうぐひすのなくこゑのみぞのこる

建長七年影供歌合　前太政大臣

ちりのこる山松のこずえにうぐひすのなくこゑのみぞのこる

法性寺前太政大臣

530

六帖部

新六三

[illegible]

雨降法師

家集

[illegible]

永安三年七月左兵衛督家忠公

[illegible]

法師

[illegible]

西治二年百首歌　[illegible]

[illegible]

[illegible]

久しかれと祈りてすなきさろ女心の神さ紅葉ちるけそら
正和二年毎百首中　円

たのしさにそ千年しとしのむらもしてよ人と松のまるよ
光厳院入道二品親王家五十首歌　松祝
西行法師

春の代のうのこしのやまのうもの松ずつも不き月やみるさ
前大僧正

契あるうちきの野のうしのの松ずはやくかれ来の代もうしし
円
西行二百首　根
つくるしのの松のうの代さうしのけさやうしうめうしまるん
前大僧正

遠藤二年和歌合　松祝
洞院摂政家百首
和歌のうしや浪のの松代さうしのて真ゆたのあひなかれ百首
前大僧正

神代よりつくしまうしまるの松
円
うしうしの世ののとせよあまる来ものまて久しうしとの松のふる
伊勢集中

おくのゐさらゐのうらの波まなけはこそつゐこの舟まつせ
人いとよ沈まうごをはつけうにこの日引
うさある歌　　左衛門督

新千賀　長かのこしのうりを聞てわれ忘よく私のあひうるまて
遠もへ年百首の合　　家雲門左衛
ちよかけうる松のたちもとうくひうるこの代まひうる人き
千五百番歌合中　　前大納言為家卿

うゑやまのうちひよ沈てこの松のこの代をこそまつ
寄和人年百首祝　　前中納言定家卿

ちはのこ沈りの系新しへ年とへるまつらと神の居る

歌合建保六年中

ちとふさんひくこの松はやちよのうたてうゑ人
千五百番歌合人合　　宮内卿門院冊侍

えうこしたの代もやちよ八千代色ひとあひ好の松はこそ君まつ
歌合建

宮　　前大納言為家

言いてくいさの松系言女人いかてうしひとれ見
播磨院四百首　　藤原雅経卿

おりつるかいさ古つ歌の人とうんあうやの松よものうりて
藤原為家卿

みちのくのあうやの松よ来くれてくる月の出やあのぬかな

353

玉蔵庵主

文永元年十七社百首

文永元年十七社百首

前太宰大弐藤原経資

寄月恋

たのしみかはるもあはれの一夜かな　月

貞応二年六月名所百首　月

うらもあらぬ紅葉もあるものをたれなつかしき松のうけかな

同年卒塔婆百首人数　月

春のこころをたれかとはまし　月

あはれ　春後朝恋

あくるまもしのんのうらのさびしけるまつとしらるやすきの松　月

嘉元二年二月百首歌合　松　月

さそふらんてあらしにやどのはらはるいそのの梅

僧基弁法師

ぬれぎぬをかけてのこさつれなき松のよ極をたてもあるつるかな

二月十八伊勢国にて為の御ことわり

とはるるまもなくすぎんとて和光うちにおもてとよりて

ゆくよをいまぞくくてえんさりければ松家

三字不

の中よりて所代あり　てうこ作る

右兼夫人服藤卿

郭公和

墨

[illegible]

[illegible]

君

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同年名所百首

為定卿

なにはいさ日数つもりの浦さびて霜うもれぬあしの枯葉

[illegible]

[illegible]

ふる雨晴ぬ夕暮

為定卿

おもてうらやうまのみるめの松風といふものの代を思ふよりん

文治元年五社百首

同

俤とるこころそとまるそれにてさそなるれ引もしあけの松

洞院摂政百首歌

為如仏女

もしあけの松に松風ふきてうらうとめぬ海の面

雜部中

為彰卿

すまのうらやうきさたにうそうれ松をひえと浪のうねうね

名所歌 摂津

橋

法眼為醍

松風のせをはやみさむきまやそとれよるりぬすまのうらさま

[illegible]

百首四季

[illegible]

[illegible]

[illegible]

556
993-1008
1009-1024

いとやうたに　片枝　霜　注二位家隆卿

ふるもの松　かよ　ふる　ていとよへぬん

卯月こ子そ

文治御歌

すゝしそうちやうの　尾　の　松の　ふる

或　或　の　陰　よ　なる　尾　の　松　代

後鳥羽院

左　ふる　尾

ふるわなるゝ　ゆ　ゆ　ゆ

559

のりとへ世界相違のよりとりて法かくて

まゐりとゝ

西行上人

玉葉一

おもひすてゝ世をのがれぬと思ふかな

山寺に夜籠侍りて

山寺に夜籠侍りて

三字下

ながめつるいとゝ心をすまして

すまして

月をのみあはれがりとへ法つけりとゝ

建久二年百首の合歌　家隆卿

ゆくすゑの松の思ひよりとるとゝ松ちのけり

同

法二位行家

けふ西のとちふ松の松よりとされとくとゝ

同

いくすんの月をとゝ松ちぬ法とゝ

家集

二月ちりいまの松のとゝ世をとひて

文永七年毎日一首中　民部卿

あつさちるといつちりもの松系河とゝ

文嘉二年毎百一首中　同

あしし山松つゝ言いつねとゝ法とゝ

光三位入道二品親王家百首　松書

前中納言定家卿

きりぎすのなく山の端の月のうつりてもあはれなる

千イ

ちぢの秋

きりぎすのなく山の端の月のあはれなる夜の中の

はつ

ちぢの秋

ちぢの秋

ちぢの秋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

二条院讃岐

なく涙よりおちつもりそめしかの松のおのえの松をつまやこと

建保二年九月百首　法印定家

ほのぼのとあけぬるそらの月かげに波川なせるいつよりの松の風

ふるのの山さとのあけぬるそらにわかれをのこすあしたの

霜

しら浪のはるかに浦のひめ松にいくよをかけてなれぬらん

日吉四首　法印定家

ちはやふるかみのいかきの松の岸に浪よせとしをへぬらん

[illegible]

石ばしの松の初ひさしき代　藤原為家

[illegible]千年[illegible]浪[illegible]

[illegible]海松院よすがらまつのよすがら

[illegible]瀬々[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

藤原為家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くりかへのあしたの松をひてと松いそとうぬらかな

みちのくにあるあしの松　松峯

かくれうき年つりめる釣舟もあしの松いかひぬんかし

ありまやけのゆきのあるしすひ松ぐらそくのうくけれ

山路の菓子中勢亜吉とまのうに遊て

いとうて日ゲをうけのうたなほてれるど

あるたくさでんぐんぐんかよいれうけるを

月前雪　鶴金石居

たまつたのはるの松つゆにたまもこめ月よふるぬ

松間雪

続後拾神祇

雪ふりまりの松ふりまりよりうくんさ世ぬ

保元二年毎日百首中　藤原忠通

伊勢のうきあのく松ふまつとそひひたるこいて

九条右大臣家合歌旅宿とうすと

都も松居

すこふりうくんさてこわ世いみりまうすむあのく松ふ

伊勢ふそうのうくすのの松ふて

六条宮家

厚風

ひさこうてんはすれとふいちうの松をしてのゆうせよ

厚風　松ふまたるのてよ歳つりふまふるどうき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

563

御門ふきまてうの紅葉をよひとりさうさうの松風

同年百首　　同

枯風のはらはらものしろさうとてやとりわきの松

はらはらいそへよりそふる松風とうかはるる

うちはらはせるものうつ紅葉ひとりはらはる

遠係三年九月百首　　西三位忠宣卿

里

さとのうちをさとらせよあらはるとうたてをはる松風

宮藤四年院九月百首　　同

をはるをはるをはる

をはるをはるをはる

秋

をはるをはる

をはる

芳池村花院前関白　　内大臣新続

新續古

ひとり

二

をはるをはるをはるを

564

同 たまつはさ

ちきりてとしのをすぐる代ひさしかな

山家祝

法性寺入道前関白

ふるさとのさくらはなつりにたえてんやちよの春にあはんかぎりは

拾遺抄

宜秋門院丹後

春ふかみ花の盛りの山ぢかなにほひやつねの春をしるらん

六イ

天暦二年内裏歌合

春の代のかすみのうちにうぐひすのつきぬ色よやちよをつるらん

永久三年五月大神宮奉納歌

春の代にあさ日の山のかすみをもつきぬ色にそめつるかな

寛治八年十二月法二位忠実家歌合

おとこ山いはねのまつのあらしかはやちよにかはるこえにこそ

永久三年十二月大神宮奉納歌

春の代にいくとせのやまかすみたちもあしきにはあらぬかな

家集

春中初瀬に宮籠りしに

かすがやまかすみたちこめうぐひすのこえはつはきけるかなかな

信実朝臣

春ぬれば春のやまもとかすみたちつはきしめをそこのうらなし

新古今

春の来つるまで

よしの人石知

あるる山橋さけまやあらしもつまつるみいをひつる

家かしとのくる山橋まもとうれもてとれなくつるよ

[illegible]山のゆふく橋つくよろつ[illegible]

河上のつくく橋つくよみまとあんらをの[illegible]

つもの午合歌と　　醍醐門院大納

雲くつるをの[illegible]の[illegible]橋つくねとあらしをみ

久安百首たつる　　後宮門院安嘉

橋ひくとみるく[illegible]代よろくつくとしる[illegible]

[illegible]　　藤仲正

[illegible]橋代わるつ[illegible]

4 拍　三行分トル

[illegible]　　[illegible]

[illegible]さけとつもすさあかの[illegible]

[illegible]　　信実朝臣

みちの山乃をのうさわちとつ[illegible]

[illegible]　　光俊朝臣

ちりやあるこの山乃をの[illegible]

遠き七年[illegible]

つるくしやあるこの[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新六ハ

いはのまたれるひとくさの月にあらてみうらぬん

三條和子

ましのうらに月のうらのうらのうらの

568

百十

うちつるひくたりたるしのすゑのさきのすゑ　末

よしへ　ちかへ

彩雲和　　赤人

百十二

うちつるの浦の山ひくしたるいひさきのすゑ　更

きかはら　あるあるく

よしへ　ちかへ

同

百十三

浪のうちつるの浦のうしほのひたるすゑ　濃

ちかへ　あるすゑ

白雪和尚　西行法師

なにうきはしのうきはしのうきはしのすゑ　沖　小島

ちかへ

藤原俊成卿

千五百番歌合

ひさかたのあまのかぐやまのすゑ　つき

ちかへ

藤原家隆

ひさかたのあまのかぐやまのすゑ　つき

ちかへ

藤原定家

月影も清きかりけりすゑ　きよ

新古今

藤原定家

ひさかたのあまのかぐやまのすゑ　かす

ちかへ

同

遠信年新文撰

藤原為家

なにはのうらのすゑつ浪のうしほのすゑ　ひさかた　元

藤原為家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あさゆくとすぎくの山乃まさかなる
苔
　　左衛門督
みるとひさたのりをあふりをもてふかまさるあさけのつきまて
苔深き
　　従二位家隆卿
　　歌合建久元年中
雲井雁
中宮家
みやこ吉野のまさかなるのちくさのもとのしたはすゑ
下葉
　　建保四年内裏十首合　　参議雅経卿
みしらぬくまなくつもるの梢のにはもとつれなきそのこれる
　　従二位藤原朝臣
　　内大臣家百首
吉野山雪ふりさとのちくさのもとのしたはすゑ
　　同
　　脱脱入道太政大臣

うらうねの雲をあしの宮ゆはのそうこひろれ山ふ
建長三年毎日一首中
まさ
民部卿
　　平
まさきのねをみ初て海さしのもとれつりをのの白雪
　　百首歌　　寄名所恋
たちのひとしのしのもとのしたはすゑ
　　従二位家隆卿
　　家集　　秋廉
つるとふとつるとまたのさけれ雲行ちのしたはすゑ
　　百首歌
　　安嘉門院四条
　　嘉元二年竹園十首御会
　　寄植恋
　　参議雅経

571

建保名所百首

四三位家隆

信濃の国

新古今

信濃なる浅間の山つまとゝのふ月日のあらしもみを

雅三

隠岐の国にて

月代

杉枝

三行分上ん

三字

三位

万九

かゝるひの三室の山よかゝれとさゝひすきんやこけをゆきて

すゝ人しる

百番合

百番合

ねぬ夜の月の

額十百九八首

文永八年毎日百首

民部卿

二位家隆卿

第中納言実教卿

ねぬ夜の月の

額十百九八首

文永八年毎日百首

民部卿

[illegible]

よろづ[illegible]

万三

[illegible]

[illegible]

文集百首歌是祥寛[illegible]利仙[illegible]

前中納言定家卿

[illegible]

[illegible]

雑歌中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いなり山さくらの枝を折りてかざしけるひきつくるの人に

左京権大夫

千載百首 神祇

いなり山さくらの枝村雨のうちかすみてのちの色なり

左京権大夫

西行法師

保延二年百首

春

見いなりのひろ野の夏の枝村雨のうちかすみてのちの色なり

左京権大夫

左京権大夫六条家歌合 西行法師

ちるつゆ山のこの乃のあやすゝきたれかはらの名なるらん

百首歌 弘安百首中 春 西行法師

みちの山の枝のさくらを唐崎の枝のさくらに代をかへて

法性寺の入道関白百首 春 盛方朝臣

万代

うぬさくらさくとのうりよしこうめのいろ枝村雨

幾代

春 高の歌中

みちの山さくらの枝さいてちるはなれいさてちるはつゝイ

人丸

弊帛取

三輪

祝かはかぬ

杉原燃木

程なしくル

手折取ル

三宮ノ

三行カトハ

修行の道にてイ

春

西行法師

みちの山のこのしたのひかりさしてちるはけ

西行法師

ふるの百番歌合

春

西行法師

ふるの山のひかりのつゆなるはなにかあらん

同

西園寺入道左大臣

[illegible]の代をまもりて[illegible]

遠保四年百首

法二位家隆卿

御面姫[illegible]のひとりの[illegible]

[illegible]

雪つもりしの[illegible]

百首四年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首哥

寄雲述懷

雲隠

雲居はるかとうの山のくもいてさいひろくて庭のうもれぬる

中務卿みこ

滝

世業社頭

わくたなか

雲の社ものひろくあるとてひろあるこころ社乃やまれ

文永七年毎日一首中　冬月雪

雪

呵毎月ひろくふるこころぬしそのこちさそ

むらめ

冬百中

月

あまつひこまたのこころへよひろくの雪はるみぬまて

十三行分カトル

梨

ちはる

西三位知家

呵にあひろく枯をとまるこころぬしすゆのねるとす

枯六十二

年ふれいかるこするゆきのあるこのあれて分こそぬれ

枯六十二

月

佐実朝臣

かるくさいかりてもるこたてつまるこのかりのあへるや冬て

枯六十二

冬月百首中　冬月雪

冬月

冬月百首中

遠き山の雪のあるこの夜こそこもりけれ

遠き七年歌合　梨花

佐実朝臣

ふるまいくるこるこ初世中よあるれこのこのやまるこる

六位蔵人

新とこ

いとこのてといとくよりやとかんぬしのおれをまうさむ

月

月

空しうる面影をたてまつる

月

あしひきの山のもゆるいきの面影をきうの

月

九条

春はまうちうあんしたいらえていくうて山のもの

をはは恩所方会

世中をうしとはひてとうくにうの方とはかくうん山のもの

月イ

知家

藤原

藤原

三行分カトル

書

六位蔵人

新六位

うえのうの君と見うまて山のうのうたのすむ新宮よ

月

月

山のうとほとてつ嬉かてうさとみまいすむ新宮

月

月

月

雜

見

道

下

春

三行分トル

六帖題

新六六

月

いふてあやひそめうたんひのもとにたるぬるのもの

風をたに惜

月

月

花

にさき

月

ことのはをたに聞

柏

三行分トル

彩ふ和

ようこそきたれ

寄言門春

月

月

月

建保三年御百首の内春四人各持題

霞のうちにいとはるばるしかのあまのいそ

秋の中

いそれのゝ萩うたかはのひまくよりうつるつゆ

御歌所にて

ゆふ風にあらきこゑ加はりうつるなくあり

信濃前司

ふれとゝはいつのあきのうつるらん柏

秋の中

三笠

見るまゝにあらしふきぬるえてかゝるのゝ

建保四年内裏四人各村雨

うつるゝ雲ゝのゝ村雨いかゝるめきよりそ雨つゝ

藤原家衡朝臣

ゆふ風にすゝこの風はそのかゝるわくもゝ庵やあきてゝ

題イ

秋

約六十

ゆふひのゝ野のゝ柏

藤原定家朝臣

ゆふ風にあらしの月のうつるゝ

信濃前司

丙

あるやまのあきのゝ雲のうつるなかれ

なるあらし

よるゝ人ゝ

六十

人ゝのうつるかゝりて古里のゝ紅葉のうつるゝ

よるゝ人ゝ

けく

みえけるゝ

光孝院入道二品親王家五十首和歌

あきのよ

常縁朝臣入道宰相

あらし

風つよくふるのさゝのあさぼらけ　にて

建保四年百首

家長卿

うゝもれぬるとまもいとゝあさぼらけ　く

三十首中　あきの

月

うゝさゝいとゝ　絶

文永元年十社百首

家人卿

ゆふ野ゆくあきのゆふ風　に

嘉禄四年百首

月

昔

ひさかたのなかのゝ月　家仲卿

ゆふ風のなかのゝ月　俊頼朝臣

ゆふ風やうつりゝ　ことと　同

ゆふ風やうつりゝ　ふ

三十首中　俊忠卿家十首

なつかしのことをとめ

家集

伊勢　島

ゆふ風やうつりゝ　つ

寛治二年百首

家人卿

ゆふ風のなかのゝ　ゆ

寛治二年百首

家人卿

ゆふ風のなかのゝ　ゆ

蟬

ゆふ風のなかのゝ　か

380
1009—1024

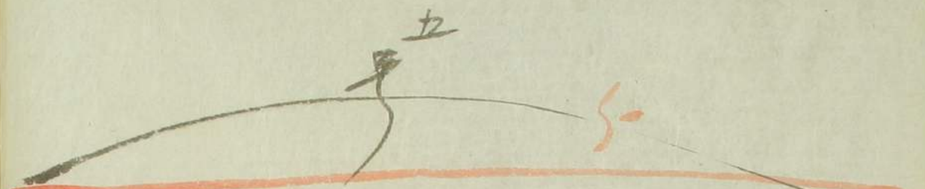
神代やみつのうつの源氏ものがたりの
萬代 れいぜいの二年四月廿五日内侍の
うちの月のうつくしきよあけのうつのりつぼにて
洞院摂政家百首
神代やうつのりつぼの月にさやけきかげをみてる

暮春

三月十日 仲務記云この国のうつのりつぼの
あり中将の歌 神代やうつのりつぼのはるのかぜ
ふきしよりこのかた

五月

みくさうるはしくあるやうつのりつぼ
ものすとはなくびんなくもうぐめれがえさくたら
ぬうつとのこりいつかなるすまはけしい
補新仏系よみをすそ海の岩ゝ中ゆとこと
ゆがそのもりにあうてそうあまをばしり
やありうんいまの世まい志海だにのうちよさく
乃志海とのよ所あり本のようたうづのやもと
ゆひうとのがりそのりてきりたちに時ひうまり
てゆちうとばうこんだてさ海ゝからうづう
とうまをおうるうにぞとみるのありとやひ



つくしのくにうれい神社四座のれまつりの祝詞を
入和なり四方のれあそびそそく四のれうどのわ
きうとうのとうの殿うとうの殿うとうくや
ちうのれうさうのみのみうしいとをのくひと
つともちてうまごそのうたうのうたうたうぐ
ときうこうまたうたうにうていづうくなうぐ
うきいうりや帝国の法師一百首の哥入ゆま
はりつうすうくのうきうはうのるくうたた
のむひうきうくうとうるうまうけどいまうぐ
そのすぐうをぐみどうの日あうくのりくうと
をうれうしかいのやうそひうさうはすみぐ
さうこうたうだうりはうのうたうにうまのうたにいまだ

猶

林下河内

大義名分有部

永和久四年八条左兵衛尉合戦を

春日名所

西海二千三百首四方哥　末葉　歩三のみこ惟

三字アキ
一字アキ
三行分トル
横
風
之
永
末葉

582

[illegible]百首寄恋　従九位藤原[illegible]

[illegible]

百首四十　暁風出秋

従四位[illegible]

ゆふけてかすかのそらに暁風ふきたれかくるこのもり

従五位[illegible]

[illegible]

従五位[illegible]

紅葉

[illegible]

三番　合　左

[illegible]

従五位[illegible]

向　椎

[illegible]

従五位[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

584

5

三字ト

悦

遺

4

栗

三字ト

三行分ト

西行法師

源家藏

寛和二年四月四位行家卿十合歌

埋

建久八年百首十合　信実朝臣

百首

捨

栗

貞応三年百首　藤原為家朝臣

あき

やくわか

世中は秋よりのちの栗のいろくやうくすさん

栗

風ふきてしろつゆとすれと袖のうへに
なほ露の涙の落ちかゝり

擬　三行分ト八

十郎百首本

前中納言定家卿

けふこそはいかなる枝にかけまくもかしこき君の御つかひ

家集

関守

せきもりはゆきとまるてふつきのあとつきせぬこひしまれやうる

俊頼朝臣

いとしのん秋

右　秋の花をうつしのりえつさとえるるまさきもかかる

栄元

新六六

室

ちはやふるかみのうつろふ年ふるしるのあとをとそとらりて

西行法師家集

室

ふるさとに枝のうつるれそよみとりうつろふしるのあ

定家朝臣

氏イ

いくせん新かう心のしるの本のるれとをとをとるつる

お中納言家

室

うつるいはをとをれたいそとにうつろのいろそつねさ

中務卿の宮

幾代

室

しるしをはやいとをとをとしるの本いくよつるん

586

源仲業

[illegible]

[illegible]

合法　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

587

[illegible]

月

[illegible]

月

[illegible]

月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

589

三行分トル

三行分カトル

七

諸輪

佐貴郡

月

心に

紅葉

月

月

月

漆

漆

一 くれなゐのおもの身にふぬるうるしの木ぬりと立てれはぬるうん　同

一 色ち并の木　同

一 馬のすじ腹のもの形端のもちぬのの木ぬりぬるとたかさにつけ　同

一 つ書　同

一 きろのめらかしらのつくりぬるうるけのきそ小節やうるまるうん　同

一 こ蛭　同

一 うちさしてもえ手ぬるうるうるうる家ん世いこぬるけ漆カメ　同

一 ひいつく木　同

一 世中いかるくぬるとるものいつくいいそいそとそ数かず　同

一 そそそ乃木　同

一 ありそそくくすすめるそそのあるそそそにすすたつきぎ茅　同

一 稲すすら　同

一 ろふのそそろふまるろ稲すすらのいくあるさるのいつさよう世　同

一 こめく　同

一 れのりさふのスの家ろめくよそれ色いろやまつうろうん　同

一 うろめ乃木　同

一 きろれい家ぬいろくうるめの木を老のすろやつくうるうん　同

一 稲ふ乃木　同

一 あるさるくいの毛ぬ稲の木と稲ふれぬ狂に中すめる月ぬかけ　同

二行分ト

すゑの末　同

梢は　おとさてすゑのしの霧

二行分ト

めぢ　同

二行分ト

かけのゐる岸のちくめつしけるくめる秋

二行分ト

檜　同

二行分ト

いくしの岸のえの末のをしの人の色　みちゆく

柿　同

二行分ト

紅葉　おれい山の末のいろ

言葉　跡　柿

信実朝臣

百首歌

寄道述懐

世の中に　柿

二行分ト

菜

二行分ト

源仲正

山里のいりえの紅葉ふるとしの風　なかて　かせ

樹　柿

のこりのうりてふるのちりぬるをそて

六の末

見

あらしのこのえのうるをそのうるをそ　夜

迎義定二年かえ四月廿九日　きさと

生

ふるのみのうるをそのうるをそ　紅葉

393

たかちゝ山さとあるてはの雨に露乃たまちるを

俊恵法師

露ちるゝ木ゝの梢をなかめいてゝ秋乃ゝ月乃ゝ雲ゝ

藤原定家

山乃ゝ乃ゝ乃ゝ

594

三行分トル

樟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

595

[illegible]

大隅国[illegible]

[illegible]の[illegible]の使よりけぬれい色このむとやんかいろん

永久二年十二月十五日[illegible]宣旨の合雪

[illegible]人[illegible]

[illegible]の[illegible]の山[illegible]元[illegible]

永安二年七月十五日[illegible]宣旨合壁[illegible]

備前法師

[illegible]の[illegible]

[illegible]三[illegible]

[illegible]

正治二年百首

[illegible]庭

[illegible]道

[illegible]

友則卿中

[illegible]梢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

治暦九年百首

法こう法行歌人

うゑの野やうれしをうゑしうゑ[illegible]

家集曉河霧

仲忠

河霧すゝ山のぬまをたゝしうりまやまを[illegible]

建仁元年[illegible]

前中納言忠良

津の国のあしの[illegible]

家集山家河霧

西行法人

富士の根の雪乃日よりそ[illegible]

治暦四年毎日百首中 月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夫木和歌抄巻第二十九終